

intloop

×



High Performer
Consultant

本格的なテレワーク導入に必要なこと

概要

新型コロナウイルス（COVID-19）拡大に伴い、感染拡大の防止策としてテレワークを取り入れた企業が多数あります。

緊急導入されたテレワークでは予期せぬ課題が多く発生し、企業としても早急に解決することが求められています。

そもそも本来のテレワークはどのような導入プロセスを踏むのか、また今回発生した課題に対してどういった解決方法が求められるのかをご紹介いたします。

目次

- 1. テレワークの種類**
- 2. メリット・デメリット**
- 3. テレワークの目的**
- 4. 本来の導入プロセス**
- 5. 緊急導入による影響**
- 6. 課題を踏まえた今後**

-
- 1. テレワークの種類
 - 2. メリット・デメリット
 - 3. テレワークの目的
 - 4. 本来の導入プロセス
 - 5. 緊急導入による影響
 - 6. 課題を踏まえた今後

テレワークの種類

テレワークとは情報通信技術（ICT）を活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。「在宅勤務」「モバイルワーク」「サテライトオフィス勤務」の3つの種類があります。

テレワーク

※「tele = 離れた所」、「work = 働く」を合わせた造語。



在宅勤務

出勤せず、自宅を就業場所とする働き方。
通勤負担が軽減され、その時間を有効に
活用することができる。
育児・介護期の従業員のキャリア継続が可能。
趣味などのプライベート時間が創出できる。



モバイル ワーク

顧客先や移動中も就業場所に含める働き方。
営業などで頻繁に外出する業務の場合、
隙間時間などを活用することにより、生産性の
向上が期待できる。
身体的負担が軽減することができる。



サテライト オフィス勤務

遠隔勤務用の施設を就業場所とする働き方。
自社専用のオフィススペースを設ける専用利用
型と複数の企業がシェアして利用する共用利用
型の種類がある。

-
- 1. テレワークの種類
 - 2. メリット・デメリット
 - 3. テレワークの目的
 - 4. 本来の導入プロセス
 - 5. 緊急導入による影響
 - 6. 課題を踏まえた今後

メリット・デメリット

テレワークによる企業側と従業員側のメリットは多く見られます。いっぽうで、デメリットも挙げられ、ITツールの活用や、個人の能力の向上など、対応策を検討する必要があります。

	企業側	従業員側
メリット	<ul style="list-style-type: none">・生産性、効率性の向上・育児などに携わる社員の継続雇用・多様な人材の活用、優秀人材確保・通勤費、オフィス維持費の削減・資料電子化など業務改善	<ul style="list-style-type: none">・プライベート時間の充実・仕事効率の向上・自律的に業務を行う能力の向上
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションが不足する・セキュリティリスクが高まる・勤怠管理が複雑になる	<ul style="list-style-type: none">・仕事と私生活の切り替えがうまくいかない

企業側のデメリットに関してはITツールを利用する対応策が挙げられます。

従業員側のデメリットについては、自律的に業務を行う能力の向上に比例して、
メリットが増幅し、おのずとデメリットも縮小されていきます。

-
- 1. テレワークの種類
 - 2. メリット・デメリット
 - 3. テレワークの目的
 - 4. 本来の導入プロセス
 - 5. 緊急導入による影響
 - 6. 課題を踏まえた今後

テレワークの目的

前述しましたが、テレワークは企業側、従業員側の双方に対しメリットがあります。さまざまな切り口で、目的も定義され、必ずしもひとつに絞ることはありません。

多岐にわたる目的のうち、何を得たいかという視点に立って導入することが重要



人材の確保・育成

- ・育児介護との両立
- ・離職率の低下
- ・キャリア継続
- ・従業員の自律
- ・自己管理力の向上
- ・優秀人材獲得



生産性向上

- ・知的生産性向上
- ・迅速な顧客対応
- ・グローバル化への対応



コストダウン

- ・電子化推進によるペーパーレス化
- ・オフィスコスト削減
- ・通勤コスト削減



働き方改革

- ・意識改革
- ・企業風土の改革
- ・ワークライフバランスの充実
- ・長時間労働削減



事業継続

- ・感染症などによるパンデミック発生や自然災害発生時の事業継続可能

-
1. テレワークの種類
 2. メリット・デメリット
 3. テレワークの目的
 - 4. 本来の導入プロセス**
 5. 緊急導入による影響
 6. 課題を踏まえた今後

本来の導入プロセス

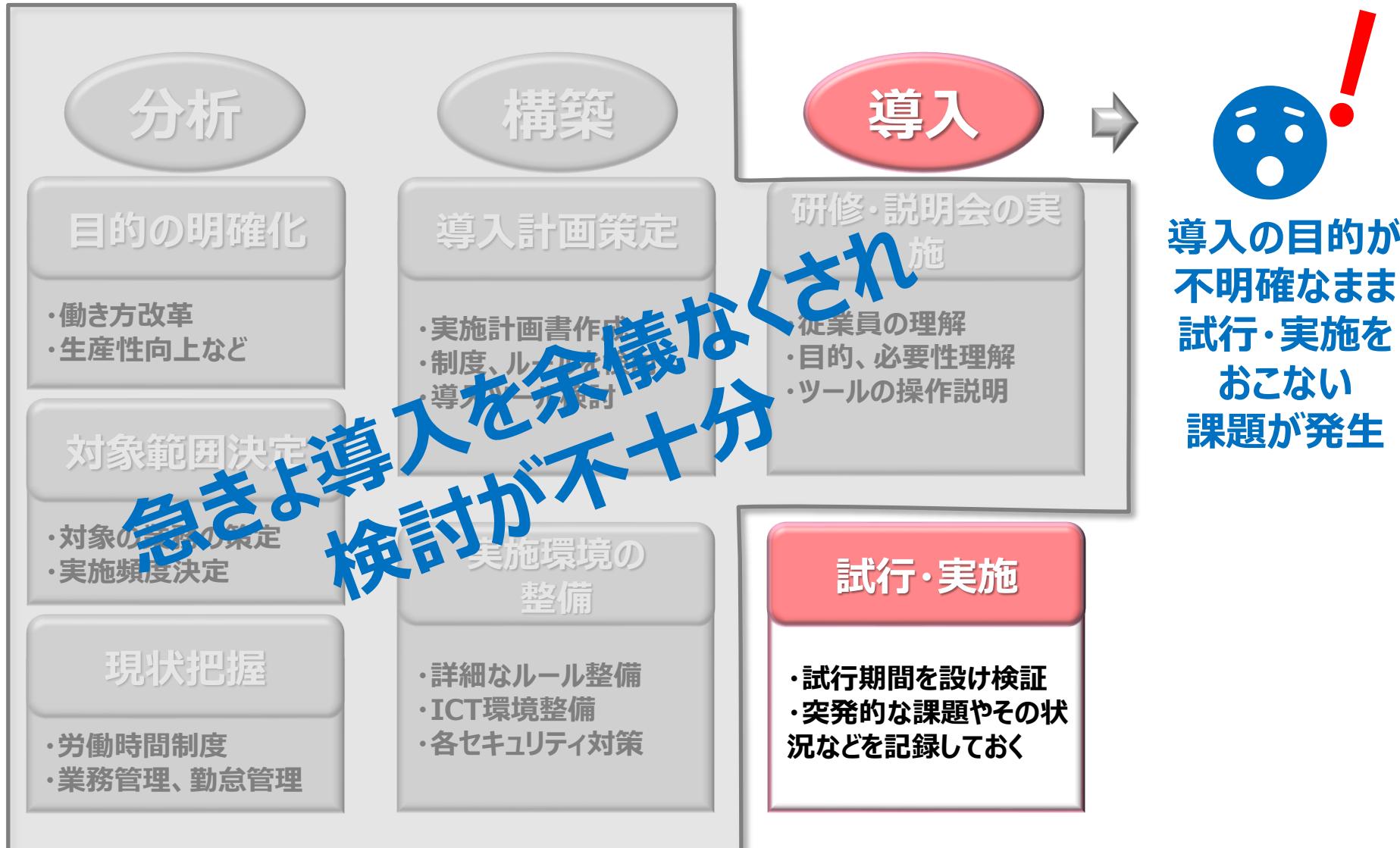
テレワークを導入するプロセスは大きく4つの流れがあります。最も重要なのは、導入までのプロセスです。WHY ? WHAT ? WHO?HOW ? WHEN?を明確にします。



-
- 1. テレワークの種類
 - 2. メリット・デメリット
 - 3. テレワークの目的
 - 4. 本来の導入プロセス
 - 5. 緊急導入による影響**
 - 6. 課題を踏まえた今後

緊急導入による影響①

コロナウイルスの影響で在宅勤務が余儀なくされ、急きよ、テレワークが導入されるケースがあります。導入プロセスで最も重要な部分が不十分な状態で実施されたため、多くの課題が発生しました。



導入の目的が
不明確なまま
試行・実施を
おこない
課題が発生

緊急導入による影響②

緊急導入による課題は様々な要因で発生し、そのほとんどが、予測できるものではありません。。
インフラ課題や仕事環境における課題、業務推進上の課題など、さまざまです。

インフラに関する課題

- 自宅のネットワーク環境が不十分
- 共有ネットワーク等のシステム不足
- 社員の持ち出しPCなどの備品不足
- 各セキュリティが脆弱 etc.

仕事環境の課題

- ワークスペースが確保できない
- 社員間のコミュニケーションが不足
- 社員のメンタルケア問題
- 自分への評価に対する不安 etc.

業務推進上の課題

- 書類が電子化できていない
- Web会議、打ち合わせが不慣れ
- 請求書、契約書などの捺印の問題
- 企業によって対応が異なる etc.

緊急導入では様々な要因で予期せぬ課題が多数

業種や個人の生活状況によって、課題は多種多様に変化していきます。

-
- 1. テレワークの種類
 - 2. メリット・デメリット
 - 3. テレワークの目的
 - 4. 本来の導入プロセス
 - 5. 緊急導入による影響
 - 6. 課題を踏まえた今後**

課題を踏まえた今後

現在発生している課題について解決するためには、緊急導入ゆえ、本来のプロセスを経ていない導入であったことを理解しておくべきです。

最適なテレワークへのに対する3つのステップ

1 本来の導入プロセス

- テレワークの目的を充分に明確にする



2 課題の再整理・解決

- 企業の目的に沿った課題を整理し、対応する

3 最適なテレワーク

- 企業の目的が明確であれば、課題が発生しても迅速に対応可能となる

テレワーク導入の目的を明確にすることが企業、個人双方にとって
メリットを最大限に活かすカギとなります。

INTLOOPについて

さまざまな経営課題の解決を支援するコンサルティング事業を主軸に、テクノロジーを駆使しビジネスモデルの変革を目指すデジタルトランスフォーメーション事業、システムの開発・導入を支援するテクノロジーソリューション事業、専門性の高い人材をご紹介する人材ソリューション事業の4事業を柱に事業を展開。

常にお客様の視点に立つことを第一義に考え、お客様の課題に対して最適なソリューションを提供し続けています。

お問合せ

下記フォームよりお問合せください。

<https://www.intloop.com/contact/general/>

記載の企業ロゴデザインについて

記載している企業のロゴ、商標は企業が提示しているガイドラインを確認したうえで記載しています。
デザイン、商標についての著作権は、それぞれの企業に帰属しています。

免責事項

この文書に記載されている情報は一般的なものであり、特定の個人や組織に対するアドバイスを提供するものではありません。掲載情報の正確さについてできる限りの努力をしていますが、その正確性や適切性を保証するものではありません。

何らかの行動をとられる場合は、本資料の情報のみを根拠とせず、専門家による適切な分析・アドバイスをもとにご判断ください。当資料を用いて行う一切の行為、被った損害・損失に対しては当社は一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。

当資料の著作権は当社にあります。当資料の転載、流用、転売など、ダウンロードされたご本人様以外のご利用は固くお断りさせていただきます。